



第11回山口県集落営農法人連携協議会 通常総会を開催

平成31年4月18日、山口県 JA ビルで第11回目の通常総会・研修会を開催しました。(総会出席法人数は、委任状を含め136法人でした。)

- ① 平成30年度活動報告及び収支決算について
 - ② 2019年度活動計画及び収支予算について
 - ③ 2019年度会費について
 - ④ 規約の変更について
- の4議案が審議され原案のとおり可決されました。



1.活動方針及び 2019年度の活動計画

●取り組みの方向性

集落営農法人は、現在 272 法人が県下各地に設立され、農業・農村の維持発展に無くてはならない存在となっています。しかしながら、担い手の高齢化・減少、国際化等農業を取り巻く状況に対応して、持続可能な経営体として経営発展を進めていくことが喫緊の課題となっています。

このため、2019年から2021年までの3カ年間の活動目標として「いま、変える集落営農のかたち」を掲げ、経営安定と後継者の確保、法人間の連携強化に取り組めます。

●今年度の取り組み

上記の方向性のもと、今年は円滑な経営継承を見据えた、「わが法人の総点検」をメインテーマに位置づけるとともに、役員・新規就業者など法人の構成員に対応した階層別研修に体系化し、次代につながる法人の経営発展に取り組めます。

●2019年度活動計画

- (1) 課題別研究会 (①経営管理研究会、②広域連携組織部会)
- (2) 階層別研修会 (①新規就業者、②若手就業者(就業後3~5年経過した者)
③オペレーター、④経理担当者、⑤事務(広報)担当者、⑥役員)
- (3) 地域法人協の活動支援(法人間連携強化に向けた支援等)
- (4) 提言活動(県知事との懇談会、JAグループ山口との意見交換会)
- (5) その他
 - ・他県との連携(全国集落営農法人サミット、集落営農法人等5県サミット)
 - ・若手法人就業者サークル「百姓錬磨の会」に対する支援

2 新役員体制について(報告)

平成31年度は役員改選の年に当たり、去る3月20日に役員会が開催され、協議会規約に基づき、新役員が選出されました。総会終了後より下記のとおり、新たな役員体制で活動されることが決定されました。

【新役員】

会長 原田 道昭 (農) 切畑ファーム(防府市)
副会長 岩木 紘 (農) 宮尾営農組合(宇部市)
監事 藤田 芳昭 (農) 羽賀台共同生産組合(萩市)



原田 新会長

3 平成30年度山口県集落営農法人優良経営体表彰

総会では、去る3月26日に開催した「平成30年度集落営農法人優良経営体表彰審査会」において「県知事賞」「JA山口中央会会長賞」「法人連携協議会会長賞」をめでたく受賞された3法人への表彰式を行いました。

この賞は、「農業所得の増大」「農業生産の拡大」を基本に、①農業所得の確保状況や経営成績の状況、②担い手の育成・確保状況、③多様な担い手の役割発揮の取り組み、④経営の先進性、⑤農地の集積・利用調整の取り組み等について審査が行われ、有終の美を飾られた以下の3法人が受賞されました。

【表彰法人】

【山口県知事賞】:(農)二島西(山口市)
【JA山口中央会会長賞】:(農)ファームつるの里(周南市)
【法人連携協議会会長賞】:(農)HN紫福(萩市)



山口県集落営農法人連携協議会 研修会を開催

総会に引き続き、同会場において法人協の研修会を開催しました。研修会では、県知事賞に輝かれた(農)二島西の福江豊代表理事より「限られた人数で農業生産ができる仕組みづくりへ」と題して、新規就業者の受け入れ、農福連携の取り組み及びスマート農業への取り組みについて実践報告をいただきました。



山本教授



事例発表をする福江代表理事

また、大阪経済大学の山本公平教授より「集落営農組織における中期事業計画策定の意義」と題して講演いただきました。

山本教授は、経営発展を進めるためには経営戦略策定が重要であると強調されました。また、事例に基づき経営計画を立てる方法について分かりやすく説明されました。

<若手就業者研修会を開催>

【ビジネスマナー研修】

平成31年4月24日・25日の両日、山口市の防長苑において、若手就業者研修会（新規採用・若手就業者向け）を開催しました。平成30年4月に新たに集落営農法人に就業された方などをはじめ、10法人から13名の若手就業者が参加しました。

有限会社ケイ・アンド・ワイの温品富美子講師からは、就業者が普段体験出来ない社会人としてのビジネスマナーなどについて学び、ロープレを織り交ぜた活気あふれる講義を受けました。



【(有)ケイ・アンド・ワイ 温品講師】

【先輩就業者との意見交換】

先輩就業者からのアドバイスでは若手就業者サークル「百姓練磨の会」の副リーダーでもある農事組合法人植柳ファームの柴岡寛瑛さんからは自身の経験を踏まえたアドバイスと熱いエールをもらいました。



【百姓練磨の会 柴岡副リーダー】

【グループワーク】

グループワークでは、活発な討論が行われました。テーマの1つである「法人への想い」として

- ①若手が働きやすい環境づくりをして欲しい。
 - ②休みにメリハリをつけて欲しい。
 - ③最新の機械（IT）を導入して欲しい。
 - ④労力に見合った売上を上げたい。
- 等、様々な想いが協議されました。



また、2つめのテーマである「もしも自分が経営者だったら」については

- ①農閑期も収入を得られるような工夫をする。
- ②新しい技術や機械を導入し、効率的な農業をする。
- ③モチベーションとして売上の何%かを報酬として従業員へ出す。
- ④利益の生まれる品目を栽培する。

等、若手就業者のやる気に満ちた発言で賑わい、若手農業者による農業の発展に大いに期待が持てました。

【現地研修】

今年度は初めての取組みとして、山口市佐山にある株式会社ベリーロードにて、いちご栽培の現地研修を行いました。代表者である原田社長は、全国的にも減少の一途を辿る農業所得への寄与と、新時代に向けて新規就農者が容易に農業へ踏み込む受け皿として事業運営されています。37棟のハウス（総面積50,831㎡）によるいちご団地への取組み概要について、研修生は熱心に耳を傾けていました。



【(株)ベリーロード原田社長と参加者の皆さん】